

学生からのメッセージ

北方領土返還要求運動次世代育成プロジェクト



池田 菜桜さん
Ikeda Nao

初めに、今回道東へ訪れることが決まった際、中2の時に訪れてから2年後にもう一度訪れられることが、とても嬉しかったのを覚えています。

そして、週末旅ということで、3日間という短い期間でしたが、魅力的な場所や美味しいご飯、とても優しい地元の方々に出会うことができ、本当に忘れることができない3日間になりました！

1回目に訪れた際と重複する場所にも訪れましたが、ほとんどの場所は初めて訪れた場所で、道東の魅力を再発見することもできました。まだまだ知らない場所もたくさんあると思うので、また訪れたいです！観光をしている中で、ふと海の方を見たときに、何度も国後島を見ました。他にも、道東で過ごした時間の中で、意識をしていなくても北方領土問題の一片が見える瞬間がたくさんありました。

北方領土問題を教科の学習で終わらせることもできますが、それではきっとこの北方領土問題がどんどん風化していくと思います。この雑誌を手に取り、道東の観光に興味を持った方や北方領土問題をもっと知りたいと思っ



濱口 拓海さん
Hamaguchi Takumi

北方領土とは、無縁とも思える長崎という地から関わることでできて嬉しかったです。

私は中学生の時に、一度北海道に行き、北方領土問題について学ぶ青少年・教育指導者現地研修会に参加させていただきました。参加した日は8月9日、これは私が住んでいる長崎に原爆が投下された日、長崎県民にとっても大事な日もありました。私たち長崎から来た中学生一行はその研修会の責任者の方をお願いをして、参加者皆で黙祷をさせていただきました。

私がここで伝えたいことは、8月9日が原爆投下された日ということではありません。北方領土問題、原爆、この二つはある都道府県では式典が行われ、小学生の頃から、その問題に対して深く考えている現状、また、問題解決のため、懸命に動いている人がいる一方、知られていない現状もあるということです。ですが、私がその研修に参加して新しく知ったことや北方領土の現状を友達に伝えたら、どんどん周りの人たちにも広がっていったりと、私が伝えた情報が連鎖し、様々な人に伝わっていったのです。

このように情報を知り、一人一人が周りの人に伝えていくことによって、情報の連鎖ができると思います。今回、私たちが作った雑誌から、道東の美味しい食材であったり、北方領土のことを知ることができると思います。この雑誌から、心に残ったことでもいいので、周りの人に伝えてほしいです。

最後に、今回の雑誌作りを通して、大きな問題に対して、様々な角度からのアプローチにより、解決に向かって動くことができることを学びました。

そして、多くの方のお陰でこの雑誌を作ることが出来ました。ありがとうございます。



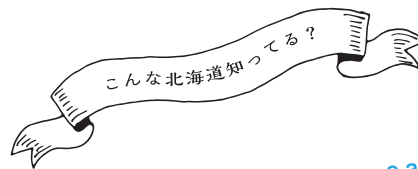
福元 崇晃さん
Fukumoto Takaaki

「北方領土問題」解決に至るまで、両国の政治・外交事情など私たちから遠く離れた出来事次第で左右されるものであると感じてしまうのは仕方のないかもしれません。

しかしながら、まず私たち1人1人が、「日本の島々であるのにも関わらず、元島民を含め私たち日本人が住むことを一切許されない現状」を認識し、危機感を抱くことで、それらが日本国民の総意として政治・外交にしっかり反映されていきます。

故郷であるそれぞれの島に帰ることを許されず、高齢化に伴い亡くなっていかれる元島民の方々も年々増えている現在、そして今後において、この問題解決を担うのはまさに私たち次世代であり、元島民の方々の声を途絶えさせ風化させていくのか、継承し前進させるのか、全ては私たちの今後のアクションに託されています。

この問題を遠いものとするのか、身近なものとするのか、2つの認識の違いで、この問題の将来が大きく変わること皆さんには改めてぜひ知ってほしいと思います。



eastern Hokkaido

学生3人による週末旅行記

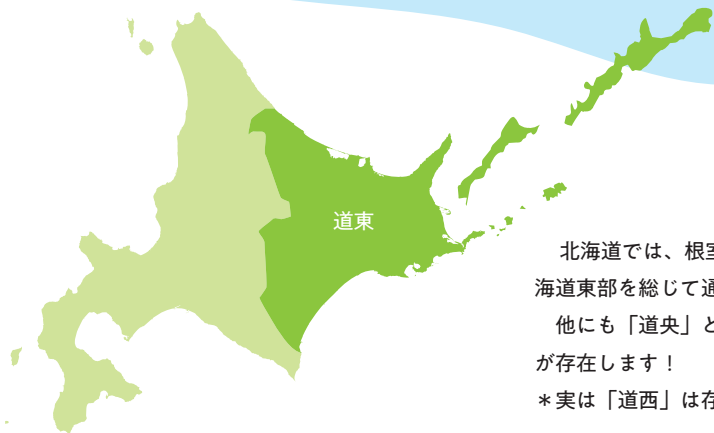
道東行ってみた





「道東 行ってみた。」

- 01 学生3人の自己紹介
- 02 旅行行程とスポットの概要
- 06 グルメ特集「道東の定番！集めました」
- 10 温泉特集「大自然と触れ合える温泉」
- 11 観光地特集「道東のおすすめスポット！」
- 14 映画『ジョバンニの島』
主人公のモデル・得能宏氏との対談
- 18 ビザなし交流・色丹島訪問（2017年度）の体験談
- 20 北方領土基本情報



北海道では、根室・網走・十勝・釧路など北海道東部を総じて通称「道東」と呼びます！

他にも「道央」と「道南」と「道北」の区分が存在します！

*実は「道西」は存在しません！

※本誌に掲載した内容は、令和3年11月～令和4年2月時点のものです。

Member introductions

あなたがまだ知らない道東を知る。
道東の魅力をご紹介しますと思います。



member
1

福元 崇晃
Fukumoto Takaaki

出身：鹿児島県 所属：西南学院大学3年生
趣味：旅行・ドライブ・コーヒー

message

初めまして！私は、大学で広報文化外交の実践例を研究しています！高校2年生の時に北方領土ビザなし交流事業に参加して、今回紹介する道東に含まれる色丹島に訪問しました！今回はその島の様子を後半にて紹介しますね！

member
2

池田 菜桜
Ikeda Nao

出身：香川県 所属：香川県立坂出高校1年生
趣味：演劇鑑賞とカメラ

message

はじめまして～！
この雑誌を手にとってくださりありがとうございます！部活動は演劇部と写真部に所属しています。中2の時に一度道東の一部の地域へ訪れたことがあり、今回で道東の旅は2回目になります。



member
3

濱口 拓海
Hamaguchi Takumi

出身：長崎県 所属：長崎県立諫早高校2年生
趣味：食べること、唐揚げが好きです！

message

初めまして！
テニス部に所属しています。この雑誌を通して道東の魅力を多くの方々に知ってもらいたいです！



北海道の東、道東で“二”日本と“口”ロシアをつなぐ“ホ”北海道を学ぶ。

初冬の道東、週末旅行。



10:15 羅臼町熊の湯
うらすちょう くまのゆ

◀左写真は、野湯に向かう一行のワンショット。
ただの露天風呂じゃない！？
地元民に愛される野湯
詳細は P.10 の温泉特集にて



11:00 羅臼間歇泉
らうすかんけつせん

◀あっと驚く！噴き出す温泉！約80分間隔で10m近くの高さに熱湯が吹き上がる様子を見物できます。



11:30 しおかぜ公園
しおかぜ

▶国後島を一望できる高台にある公園です。近いようで遠い国後島を眺めることができます。詳細は P.12 の観光地特集にて



15:00 風蓮湖
ふうれんこ

◀約300種類の野鳥が観測できる！根室市と別海町にまたがる国内最大級のハクチョウの飛来地！



道の駅で昼食！

道東の海産物を堪能！
詳細は P.08 のグルメ特集にて



夕食後の車内は皆寝落ち！
試験がある
濱口くんとはお別れ...



15:30 北方四島交流センター
ニ・ホ・ロ

◀国内外の方々に北方領土問題について理解を深められる啓発施設です。また、北方四島に居住するロシア人の方々と交流を深める拠点施設でもあります！



16:00 得能さんとの対談
とくのう たいたん

◀ソ連軍による色丹島上陸前後の様子等を実話に基づいて描いた映画『ジョバンニの島』。今回、その主人公のモデルとなった色丹島の元島民・得能宏さんと対談をしました。詳細は P.14 のインタビュー特集にて

18:00 根室を堪能！夕食
ねむろ

▶根室の海産物を食す！



9:00 根室中標津空港

Day 01
schedule

10:00 知床羅臼ビジターセンター

10:15 羅臼町熊の湯

11:00 羅臼間歇泉

11:30 しおかぜ公園

12:00 昼食

15:00 道の駅スワン44 ねむろ・風蓮湖

15:30 北海道立北方四島交流センター ニ・ホ・ロ

16:00 得能さんとの対談

18:00 夕食

19:30 動画グループとの意見交換

20:00 宿泊



09:00 根室中標津空港
ねむろ なかしべつくうこう

◀中標津に到着！実は国内初の木造ターミナルビルの空港！

10:00 知床羅臼ビジターセンター
しれとこうす

◀熊に遭遇！？
世界自然遺産である知床を楽しんで知ることができる施設です！様々な情報提供やレクチャーを行っています。



北海道の東、道東で“二”日本と“口”ロシアをつなぐ“ホ”北海道を学ぶ。

2 日目は絶景から始まる。



Day 02 schedule

- 6:20 車石（日の出を望む）
- 8:00 朝食
- 9:00 納沙布岬・北方領土関連施設
（四島のかけ橋、北方館、北方領土資料館）
- 10:00 東根室駅
- 10:20 昆布盛駅
- 10:30 落石岬
- 12:00 昼食
- 14:00 根室中標津空港



6:20 車石から望む日の出 くるまいし

◀早起きして見る価値あり！朝日の絶景。本土で一番早く朝日を見られる街・根室で水平線から昇る日の出を眺め迎える朝は、1日の始まりとして贅沢すぎる感動を与えてくれます。



08:00 食堂で朝食

◀豪華朝ごはん！トロサンマ井と毛蟹汁をいただきました。新鮮な海鮮とホカホカな汁は北海道の初冬にピッタリでした。詳細はP.06のグルメ特集にて



目の前に広がる 北方領土

- ・納沙布岬
- ・北方館
- ・北方領土資料館
- 09:00 四島のかけ橋

朝食を済ませた後、北方領土に深く関係している地を訪れ、理解を深めました。



北方館 ほっぽうかん

◀北方領土問題や歴史の経緯が分かる展示資料を通して学ぶことができる施設です。



10:00 東根室駅 ひがしねむろえき

▶日本最東端の鉄道駅「東根室駅」！



10:20 昆布盛駅 こんぷもりえき

▶偶然ユニークな名前の駅を発見！語源はアイヌ語で「コムプ・モイ（昆布・湾）」



納沙布岬 のさつぷみさき

◀本土最東端の岬。本土で一番早く朝日を見られる地として有名です。また、この岬から先の島々は北方領土となっていて、天気の良い日は歯舞群島を目視できます。詳細はP.13の観光地特集にて



▲岬には地面に北海道と北方領土の位置関係が記されています。



▲四島（しま）のかけ橋
4つのブロックが北方四島を表現しています。



10:30 落石岬 おちいしめさき

◀まるで異世界の林を抜けた先には北海道三大秘岬が！野生の鹿にも遭遇！



12:00 昼食 ちゅうしょく

◀根室ご当地グルメ「エスカロップ」を食す！その語源とは！？詳細はP.09のグルメ特集にて

新鮮な海産物・ご当地グルメの魅力を紹介します！

道東の定番！集めました

朝早起きをして、
生サンマ丼をいただきました。



根室といえばサンマ！

根室市は、全国でも有数のさんま水揚げ街であり、数量で11年連続、金額で23年連続日本一となっています（令和2年時点）。9月には、「根室さんま祭り」も開催されるほどの特産品です。



店主のご好意で毛蟹汁もいただきました！

ちなみに根室の特産「花咲ガニ」の名前の由来は、

- ・根室市花咲港で多く水揚げされているからその名がついたと言われている説
- ・茹でると花が咲くように見事な赤色になることが由来になったという説などがあります！

出来立ての毛蟹汁はアツアツで
とても美味しかったです。



◀毛蟹汁までサービスしてくださった食堂の店主の方、実は元々漁師で、過去には漁の最中にソ連に拿捕され、2ヶ月間拘束された経験をお持ちでした。



元漁師の店主の方から、当時の拿捕の経験を聞き、領土問題解決の将来を語り合いました。



▲当時の新聞も大切に保存されていて、私たちが実際に見せていただきました。

返還運動に取り組む 地元高校生と交流！

根室高校北方領土根室研究会に所属する久保歩夢さん（根室高校普通科2年生）と交流しました。久保さんは中学校3年生の時にビザなし交流で択捉島の訪問経験があり、所属する北方領土根室研究会では、日本各地で北方領土に関する出前講座などを行っています。先日は宮崎県の中学生と北海道で交流したと話していました。



朝ごはんは毛蟹汁をサービスしてくださった方は、なんと久保くんのおじいちゃんでした！

～根室高校北方領土根室研究会 活動紹介～

- ・北方領土出前講座
- ・FMねむろ番組収録
- ・北方領土弁論大会への参加
- ・北方領土返還要求キャラバン隊など



新鮮な海産物・ご当地グルメの魅力をご紹介！

道東に行ったら食べたいご当地グルメ

特集—グルメ

道東の定番！集めました

道東 a weekend trip



羅臼ではサーモンやイクラ、そして黒ハモを堪能！

北海道といえば、新鮮な海産物。
北方領土周辺の水域は親潮（千島海流）と黒潮（日本海流）が交錯し、
水産物が極めて豊富で、古くから世界三代漁場の1つに数えられて
います！親潮・黒潮は中学校の社会で習うよね！



羅臼昆布ラーメン▶
昆布麵を使用した昆布尽
くしのラーメンもご当地
グルメとして人気です。

1日目の夕食も、
新鮮で美味しかったです！



伝統ある根室のローカル飯「エスカロップ」！

地元の老舗レストランで考案され、現在も根室市民に愛され続ける「エスカロップ」！
漁師が早く食べられてお腹いっぱいになれるメニューとして考案されました！
漁業が盛んな根室ならではのですね！
なかなか聞きなれないこの名前はフランス語で「肉の薄切り」を意味する
"Escalope" から由来するとされています。



北海道といえば「ザンギ」

私たちも噂の「ザンギ」食べてみました！
「ザンギ」は北海道で伝承されてきたグルメで、
一般的に北海道では鶏の唐揚げのことを「ザンギ」と呼びます。一般的な唐揚げと比べて味付けが濃いのが特徴で、揚げる前に鶏肉を醤油ベースの甘辛いタレに漬け込んで作られます。
名前の由来は、中国料理の鶏の唐揚げ「炸鶏（zhajī）」（発音：ザーチー / ザーギー）に運が
付くようにと、文字の間に「ン」を加えて「ザンギ」
になったという説があるそうです。現在では、
鶏肉の唐揚げ以外にも「タコザンギ」や「サケ
ザンギ」のように、食材に衣つけて揚げたものを
「～ザンギ」と名称をつけて呼ばれています。

特集—グルメ

道東の定番！集めました

道東 a weekend trip

意外と知られていない！？豊富な温泉に出会うことができる道東！

大自然と触れ合える温泉



国後島で育った元島民の方は、「海岸に湧き出ている温泉と海の中に出たり入ったりして、飽きることなく遊んだなあ」と当時の国後島の温泉での思い出を語ります。

ただの露天風呂ではない！

羅臼の野湯「熊の湯」

野湯がある噂を聞きつけ羅臼の「熊の湯」へ。

その日は、サケ漁を営む漁師の方と、小学校の先生をされている地元のお二方と遭遇しました！お話によるとこの温泉は地元の漁師たちが日々の漁の疲れを癒すために作られたそう。驚くのは温泉の温度！火傷するかと思うほど熱い源泉が流れており、漁から帰った漁師さんたちが冷え切った体を芯から温めている。現在では漁師さんをはじめとした有志の地元保存会の方が当番制で毎朝清掃をしているのだとか。



▲熊の湯の入り口



▲外観です。扉を開けると脱衣所があり、その奥に温泉があります。露天混浴です。



▲岩場に湧く天然の露天風呂になっています。

「熊の湯」の名前とおり、年に1、2回は熊が出没して温泉が封鎖されるそう！



根室と国後島を結んでいた！？現在も残る海底ケーブル

根室国後間海底電信線陸揚施設

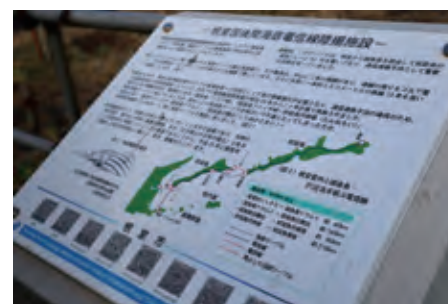
北方四島に残された日本人の印。

根室と国後島を繋ぐ通信用海底ケーブルの陸揚施設「根室国後間海底電信線陸揚施設」。電信線は明治時代に通信省（ていしんしょう）が根室から国後島を経由して択捉島まで設置し、建物は電話線開通頃（昭和 10 年頃）の建設と考えられています。戦前、根室から国後島を経由して択捉島の薬取（しべとろ）村を繋いでおり、通信連絡手段として重要な役割を担っていました。



英米の密漁船対策やロシアの東進政策への対策として千島の警備強化が必要となり、通信連絡手段確保のために用意されましたが、1946 年、ソ連軍に利用されるのを恐れて陸揚庫のところでケーブルが切断され、海中に投棄されたことが分かっています。

2021 年 10 月には、国後島とのつながりを示す歴史的遺構として登録有形文化財に登録されました。



総延長：500km 以上

- 根室村ハッタラ～国後島ケラムイ 約 40km
- 国後島ケラムイ～国後島白糠泊 約 145km
- 国後島白糠泊～択捉島丹根萌 約 60km
- 択捉島丹根萌～択捉島薬取 約 210km

（出典）根室市公式 HP
<https://www.nemuro-kankou.com>

電信線で国後島・択捉島まで繋がっていたことを示す歴史的及び象徴的な建物、つまり北方四島に日本人が住んでいたことを示す証拠であり、当時の姿を残す非常に貴重な建物です。

目の前に見えながら、 足を踏み入れることのできない 日本の島々



▲しおかぜ公園（羅臼町）

国後島を 高台から見つめる



▲納沙布岬（根室市）

北方領土を目の前に する納沙布岬

北方領土のうち、最も近い歯舞諸島の貝殻島までわずか3.7kmの納沙布岬にやってきました。いくら近くても、その先に足を伸ばすことはできません。



各都道府県から送られた石碑の中から、それぞれの出身地を見つけました！私の出身地である香川もありました！



▲四島（しま）のかけ橋と祈りの火



「祈りの火」は、昭和47年5月15日に祖国復帰を果たした沖縄・波照間島で自然発火したもので、皆さんの北方領土返還の願いと共に各都道府県を経て、ここ根室市の納沙布岬まで運ばれました。まさに世界平和と世界の正しい秩序を象徴し、北方領土返還が叶うその日まで「祈りの火」は燃え続けます。

映画『ジョバンニの島』 主人公のモデル・得能宏氏との対談



ソ連軍による色丹島上陸前後の様子等を実話に基づいて描いた映画『ジョバンニの島』

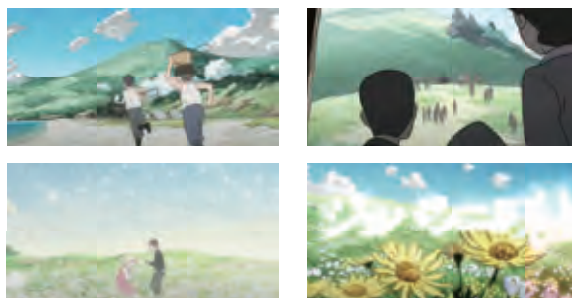
今回、その主人公のモデルとなった色丹島の元島民・得能宏さんと対談をしました。



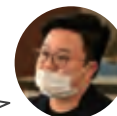
映画『ジョバンニの島』は、元島民であり、今も「語り部」として活躍されている得能宏さん（色丹島出身）の経験を踏まえた、色丹島が舞台のアニメーション映画です。

2014年2月、一般社団法人日本音楽事業者協会創立50周年記念作品として公開されました。

北方四島のひとつ色丹島にソ連軍が進駐。二度と故郷に帰ることが出来なくなった人たちの悲しみ、父との再会を想い続ける幼い兄弟。過酷な運命に翻弄されながらも誇り高く生きる人々を描いた物語です（主人公の少年「純平」のモデルが得能宏さん）。



今日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。実は得能さんとは初めましてではなく、以前お会いしたことがありまして、2017年に私が参加した北方領土ビザなし交流で、色丹島に出発する際に得能さんが港までお見送りに来てくださって、その際にお話をしました。



福元



得能氏

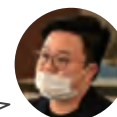
そうでしたか！

本当に申し訳ないんだけど、私は今度88歳を迎える歳でだいぶ歳を取ってしまって、思い出そうにも思い出せなくてね。ただこうやって皆さんとお会いして「前に会ったんだよ」と言われると、もう記憶にはないんだけど嬉しいよ。

今現在、コロナが小康状態を保っているとはいえ、世界的にはそうでもない現状があるわけですよね。いっそう気持ちが滅入ってしまう状況で、幸いだなと思うのは、全国から、コロナに負けないでがんばって来てくれること。従来だったら、相当多くの方が、若い人たちがこの現地の根室に来てくれる。そこから得るものは、大変多かったと思う。それが返還運動の原動力になっていることは間違いないと思っているし、私たち元島民は今でなければ語れないことがたくさんあるわけですよ。それを聞いてもらえるのは本当にありがたいよ。

そのように言うてくださって光栄です！

また色丹島訪問では、得能さんのお姉さんと、『ジョバンニの島』でも描かれていた得能さんの親族が眠るお墓にも手を合わせました。



福元



◀2017年
色丹島に出発する
直前 根室港にて



◀2017年
色丹島・斜古丹の
得能家墓にて



得能さんの生まれ故郷でもある色丹島を主な舞台にした映画『ジョバンニの島』では、ソ連軍侵略後の得能さんを始め、元島民に起こった様々な出来事が描かれていました。

福元



得能氏

ソ連軍侵略後、これまでの生活はどれもこれも奪われ、また色丹島を出て本土に戻るまでもかなりひどい扱いを受けてきて、周りの親戚を始め多くの人が厳しい環境の中で亡くなったことは紛れもない事実だし、許されることではないよ。

ただ、これまで一度も敵対心が生まれたことはないね。

作品の中ではソ連人との交流も軸に描かれていましたが、敵対心が生まれたことがないというのは、色丹島での彼らとの生活が関係するのでしょうか？

福元



得能氏

その通り。私の場合はソ連軍侵略後の3年間、11歳から13歳まで、ソ連の軍人とその家族と色丹島で共に生活してきたよ。その3年間の彼ら彼女らとの思い出というのは、まさに「国は違っても人は同じなんだ」ということを分らせてくれたね。

だから、毎回数丹島に訪れる度に、彼ら彼女らとは人種は違っても同じ故郷を共有していて、自然と打ち解けあうことができるんだよ。

本日は得能さんと再会を果たすことができ、そして何より元気なお姿を拝見することができ、多くのお話を聞けたこと、大変光栄に思います。今後どうかお身体を大切に、得能さんの健康を何よりも願っています。



福元



得能氏

こちらこそありがとうございます。

こうやって皆さん方にお会いして、お話を聞いてもらったり、皆さん方の思いを聞かせてもらったりすることは、これからの北方領土返還運動の拡大していく歴史を作っていくことにつながる。元島民のいるうちは元島民が基礎になっているんだけど、やがていなくなる。そのときは、当然皆さん方が大きな基礎になっていくわけですね。僕はそう信じて、多くの人のところに島民として体験したことや元島民の思いというものをお伝えしてきた。

何年か経つうちに、大きな、ひとつの点が線になる。僕はそういう表現を使うんだけど、ひとつの点が動くことによって、線から面につながっていく。あちこちで不穏な行動が起きている現状のなかで、皆さんのような若い人が自分たちの目を見て、やがて皆さん方の心の中から、北方領土に対する思いというのが、どういう形で返還運動につながっていくのか。皆さん方がどんな動きをしてくれるのか。これからあなたたちのお力でもってどう成し遂げられていくのか。将来的に、必ず成し遂げられるんだと僕は確信しています。



2017年度ビザなし交流の体験談

私の色丹島訪問記

私（福元）は、2017年高校2年生の際に、北方四島ビザなし交流で色丹島を訪問しました。

今回は、色丹島で見た景色や出会いをみなさんに紹介します。



えとびりか

◀北方四島交流等事業の使用船舶「えとびりか」。
今回、私も初めて利用しました。



ネームプレートは2カ国語

◀色丹島行きの船に乗る前に名札が配布され、日本語だけでなく、ロシア語でも名前が書かれていました。



国籍を超えた歓迎

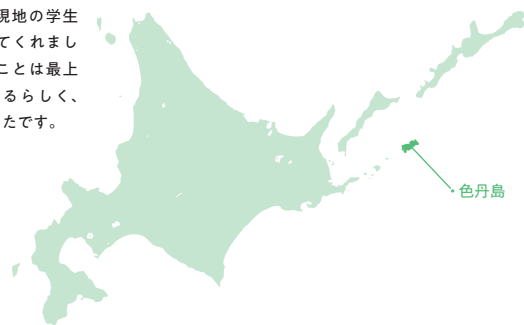
◀「た」の濁点は抜けてはいるものの、とても温かい歓迎を受けました。



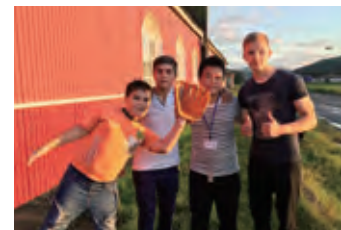
色丹島に到着！

◀色丹島に着くと、現地の学生たちが温かく歓迎してくれました。パンでもてなすことは最上級の歓迎とされているらしく、味もとても美味しかったです。

ちなみにこのパンは
"カラヴァイ"と呼ぶそう！



至る所に日本文化が！
◀現地の学校では、これまでの両国における文化交流の深さを感じさせる品々が多く展示してありました！



キャッチボールを通して絆を深める
◀日本の伝統的スポーツである野球を通して現地の学生と親交を深めました。



色丹島で育んだ絆
◀通訳の方はいたものの、私はロシア語が話せない、また現地の学生も日本語はもちろん英語も話せないという状況であり、思い描いた円滑なコミュニケーションを取ることに苦労しました。しかし、スポーツを通して確かな絆を築くことが出来ました。



あっという間に時は過ぎ…
◀そしてお別れの時間。今回の訪問を通じて仲良くなった2人とツーショット！この2人とは今でもSNSを通じて交友が続いています！

わざわざ見送りに来てくれた2人！

今回の訪問を通して私が経験したのは、両国の絆はもちろんのこと、それと同時に直面したのが「日本の領土でありながら日本人が住むことを許されていない現状」でした。

まず、私たちが北方四島の現状を把握し、一人一人が問題を認識することが北方領土問題の解決につながります。「領土問題」と聞けば何か遠い問題に思えますが、皆さんそれぞれが問題意識を抱くことで、それらが国民の総意となり、問題解決への後押しとなります。

国籍は違えど、同世代の友人と今後の北方領土問題解決に関して言葉を交わすことができたこと、そして何よりも現地で出会った友人らと一生続くであろう親交を持つことができたことは、何よりの出来事でした。

